



## 福岡県営天神中央公園 西中洲エリア

株式会社エスティ環境設計研究所

澁江章子・井口直・森永咲

yHa architects

平瀬祐子・平瀬有人

株式会社松下美紀照明設計事務所

松下美紀・中村元彦

株式会社エスティ設計

庄司雅之・鳥越宗樹・金子宏和

福岡市の中心部に位置する天神中央公園は、全体面積 3.1ha のうち道路を挟んで東側のエリア（約 2.3ha）と西側の西中洲エリア（約 1.0ha）に分かれている。本作品は PFI 事業を絡めて西中洲エリアのリニューアルを行ったものであり、公園

に隣接する那珂川の水辺空間や公園内に位置する国指定重要文財「貴賓館」を最大限に活かし、天神と博多、西中洲を結ぶ、昼も夜も楽しめる新たなにぎわい拠点の創出を目指した。

### 貴賓館を魅せる

天神中央公園の東側は、福岡市の交通を支える明治通りに接しており、ここからは貴賓館が正面に見える。都心部に突如として現れる明治の洋館。明治通りを歩く人がふと足をとめて写真を撮りたくなるような、貴賓館がシンボリックに見える景観づくりを目指した。貴賓館正面へのビスタを強調し、舗装や緑石、ベンチなどの素材を一つの種類に揃えることで、貴賓館が

### 作品概要

作品名—— 福岡県営天神中央公園 西中洲エリア  
 所在地—— 福岡県福岡市中央区西中洲6  
 発注—— 福岡県  
 設計—— 株式会社エスティ環境設計研究所：澁江章子、井口直、森永咲  
 yHa architects：平瀬祐子、平瀬有人  
 株式会社松下美紀照明設計事務所：松下美紀、中村元彦  
 株式会社エスティ設計：庄司雅之、鳥越宗樹、金子宏和  
 施工—— 造園工事…草寿園、都市造園、西鉄グリーン土木、涼華園、森園芸場、平成緑地建設  
 設備工事—— 電友社、筑紫電業、柳電設工業、永和興産、尾形設備工業  
 設計期間—— 本計画：2016年10月-2018年3月、  
 実施設計：2018年7月-2019年3月  
 施工期間—— 2019年3月-2019年8月  
 規模—— 面積規模 0.98ha  
 主要施設—— 御影石舗装広場（イベント広場）、芝生広場、ロングベンチ、  
 福博であい橋改修、旧福岡県公会堂貴賓館ライトアップ照明、  
 夜間照明、建築：飲食施設（2棟）、休養施設（1棟）、トイレ改修  
 ほか

### 作品評

福岡市の中心部に位置する天神中央公園の東側の「西中洲エリア」は、Park-PFI によってリニューアルされた。ランドスケープ、建築、照明がそれぞれ役割を分担して設計を行い、応募者は、公園全体の基本計画・実施設計を行った。  
 本公園の主役である貴賓館は国指定重要文化財に指定されており、賓客をもてなすために明治 43 年に建てられ、福岡を訪れた方に歴史を伝える施設として活用されている。貴賓館の魅力を最大限高めつつ、賑わいづくりや魅力的な水辺空間づくりを行うことが主題であった。  
 「貴賓館を十分に活かしていない」、「入りづらい雰囲気がある」、「水辺の魅力を感じにくい」、という課題に対して、「貴賓館を魅せる」、「まちに開く」、「水辺に開く」をデザインコンセプトとした。貴賓館をどこからでも見ることができ、入り口を改めてまちとつなぐ、開かれた水辺空間をつくるデザインを行った。福岡市の名所の景観を改善し、利用促進、賑わいづくりに貢献した功績が評価され、特別賞となった。



①「貴賓館を魅せる」「まちに開く」明治通りから貴賓館を印象的に魅せる ②「水辺に開く」大きな木の木陰で休憩したり、水面に近づいたりすることができる水辺の憩いスペース ③「貴賓館を魅せる」平屋建ての建物の屋根を開放し、そこに上るための階段部も含めて貴賓館をみるための新たな視点場。イベント時には観客席としても利用 ④貴賓館のライトアップによる夜の新たなにぎわいスポットの創出

浮かび上がって見えるようにしている。

貴賓館の周囲は円形のロングベンチを設け、360 度どの方向からでも貴賓館を見ることができるようにした。また、PFI 事業で整備した 3 つの建物のうちの 1 棟は、貴賓館に向けて観客席にもなる階段や屋上を設け、新たな視点場として利用されている。他の 2 棟は公園南側的那珂川沿いに連続的に配置し、対岸から見た際にふたつの建物の間に貴賓館がフレーミングされ、一体感のある風景をつくっている。

### まちに開く

公園の東側と西側がまちに対して閉じた雰囲気になっている

のが課題であった。そのため、東西どちらからでも公園に入れるようにし、特に道路に面している西側は全面を道路と連続し、まちに対して開放的な雰囲気を創り出した。

### 水辺に開く

水辺に向けた飲食施設を設け、屋外には水辺を眺めながら木陰で休憩できるロングベンチを配置している。また、川沿いの転落防止柵は笠木の幅を広く設定し、飲食施設で買った飲物を笠木の上に置いたり、手を置いて水辺に近づいたりしやすいよう配慮している。